

# 尚徳

学校便り「尚徳」2月号  
第486号

鳥取大学附属小学校  
平成25年2月14日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>  
題字「尚徳」は、住川英明教授(地域学部)



実りの学校は皆の成長を共有する場

副教頭 鈴木 英之

「実りの学校」の練習が佳境に入ってきました。各学年が1年間、学年で取り組んできた各教科やちいき(総合)などで学習してきた成果を発表する場として、平成12年度から続いている学校行事です。自らの成長だけでなく、友達の成長を自覚するよい機会でもあります。

壁新聞やポスター、プレゼンテーションでの発表、歌や群読、劇での発表の他に、楽器による合奏や和太鼓の演奏で、その学年のテーマやメッセージを伝える学年が多いです。音楽で発表する学年は、音楽担当だけでなく、担任も一緒になって取り組んでいます。

私が音楽の授業を担当したのは公立校で3年間ぐらいしかありませんが、本校で6年生を担当したときは、音楽担当の先生と協力して、実りの学校や6年生を送る会の合奏、卒業式の「巣立ちの歌」の指導を行いました。

まず、希望した楽器やパートごとにオーディションを行います。打楽器やピアノ、鉄琴・木琴のように数が少ない楽器のパートを決めるのには特に慎重になります。真面目に練習に取り組めるか、緊張の中でもリズムがとれて指揮者が見えるか、オーディション用の短い楽譜を見なくても演奏できていたかななどの観点で、音楽担当の先生と両担任が話し合い、演奏者を決定しました。

パートごとの個別練習の後、全体で音合わせをしますが、音合わせの前や後、勝手におしゃべりしたり、自分の楽器の音を出したりしないで静かに話を待つ習慣を大切にさせました。音合わせ前の指示や、音合わせ後のパートや全体のリズムや音階など、音楽の先生の指導と評価はパートだけでなく、皆が共有したい情報です。

個人の頑張りもありますが、自分の楽器は、楽譜通り演奏できて当たり前、さらに友達と息を合わせ、心をつにして発表する集団の頑張りが必要です。この集団の頑張りが見ている人たちに感動を伝えることを子どもたちに実感させることも行事での大きなねらいです。

また、「準備してもらって当たり前」ではなく、自分以外の他者を思いやる心や、発表練習のため、準備や物づくり、時間変更、修理など、あらゆる場面で支えている多くの先生方の存在に気づかせ、水本先生が6年生によく言われるフレーズ「感謝の心をもたせる」ことも大きなねらいです。

日に日に個人や集団の上達が各学年の練習会場からの音色や歌声、発表の声から職員室にも伝わってきます。今年度の実りの学校も各学年の工夫にあふれ意欲的な発表がいっぱいで、子どもたちの成長した姿を見るのがとても楽しみです。

## 【給食週間】



全国給食週間にあわせて、本校でも1月24日～30日まで給食に関する様々な取り組みを行いました。インフルエンザの流行で、近年実施できなかったきょうだい学級による交流給食では、他学年の友だちや級外の先生と楽しく給食を食べることができました。

鳥取の特産物を使った献立の日に、栄養教諭の豊田先生からつきょうやカニ、ハタハタ、二十世紀なしなどの特産物についてのお話を聞きました。また、高学年玄関には、毎日給食に関する情報や子どもたちの作った給食標語も掲示されました。



給食委員会のイベントでは、豆つまみ大会やさわって食材あてクイズなど、工夫をこらした

コーナーでたくさんのおもたちが楽しみました。

これからの給食や食について深く考える週間となりました。

### \*子どもがつくった標語

1年 きゅうしょくで  
ハンバーグ出たら  
うれしいね

6年 給食は  
栄養満点  
元気出る



